

令和 6 年度

地域力応援基金助成事業 活動報告書



地域力推進課

区民協働・多文化共生担当

はじめに

地域力応援基金へのご寄付をいただいた皆様に、心から感謝を申し上げます。

区民や事業者の皆様からいただいた寄付金を原資とした「地域力応援基金」を活用し、区民活動団体により、様々な地域の課題解決のための活動が実施されています。

令和6年度の地域力応援基金助成事業について、助成団体からの活動報告をとりまとめました。

ぜひご覧いただき、連携・協働のヒントとしてもご活用いただけると幸いです。

★本書は、令和6年度地域力応援基金助成事業に採択された団体から提出された活動報告書を一冊にまとめたものです。

■ 地域力応援基金助成事業の概要

地域力応援基金助成事業は、平成21年度の制度創設以来、区民活動を支援するとともに、協働を推進する施策として実施してきました。これまでの事業の実績や地域活動の現状を踏まえ、令和元（平成31）年度から以下の現行制度となりました。

-各助成事業の概要-

	スタートアップ助成	ステップアップ助成	チャレンジ助成・チャレンジプラス助成
主旨	団体の基盤となる事業の応援	基盤となる事業を拡大・拡充させる事業やスタートアップ助成事業の規模拡大の応援	新たな地域課題や新規事業にチャレンジし、地域の連携・協働の深まりが期待できる事業を応援 このうち、区が示すテーマに即した事業であれば、申請額の上限を50万円増額とする（チャレンジプラス助成）。
要件	設立から6年未満	設立から2年以上	設立から5年以上、かつ過去に地域力応援基金助成事業で採択された団体は、実施終了から2年以上経過していること
総額	総額200万円 （継続150万円）	総額280万円 （継続210万円）	総額1,000万円 （継続750万円）
助成額	1事業につき20万円まで （継続は15万円まで）	1事業につき40万円まで （継続は30万円まで）	1事業につき200万円まで （継続は150万円まで） ただし、チャレンジプラス助成として申請した場合は、250万円まで（継続は187万円まで）

スタートアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
ユキガヤウオッチング	絵本の制作・出版・配布（寄贈）	4
途草会	地域人材の複合的活用による多世代型「ご近所文化圏」の機会・体制づくり	5
ほめトコ	ほめトコ	6

■継続

団体名	事業名	頁
オペラフェスティヴァ東京大田	老人ホーム等慰問演奏会による地域貢献	7
おおた・子どもの生きる力を育てる応援プロジェクト	子どもの「生きる力を育てる」応援プロジェクト	8

ステップアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
大森室内楽愛好会	福祉施設利用者や学習支援塾利用者等、事情があって音楽を必要としながら生演奏に接することができない人々の元へ、出向いて良質な音楽を届ける音楽アウトリーチ活動	9
おおお知るまちプロジェクト	”おおお”をもっと知り、もっと好きになるプロジェクト	10
一般社団法人 TOKYOBAY スポーツ&カルチャークラブ	大田区の自然にふれる活動	11
東京プレクトラム音楽協会	大田区音楽交流プロジェクト	12
一般社団法人 大田区伝統工芸発展の会	大田区伝統工芸展	13
特定非営利活動法人 どこでもオリヒメ	ICT 活用による社会参加推進事業	14

■ 継続

団体名	事業名	頁
Link×Link	世代を超えて皆が集まる場所を作る事業	15
いきちか学童クラブ運営会	【くらし×微生物】いきちかコンポストプロジェクト	16
ハートリレープロジェクトおおた	子どもの発達・育成に関する啓発および支援事業	17

チャレンジ助成

■ 新規

団体名	事業名	頁
おおた生涯学習世話人会	「大田区学」の学びを講座とフィールドワークで推進する事業	18
公益財団法人日本サードセクター経営者協会	産官学連携アントレプレナーシップ型インターンシップ事業	19

■ 継続

団体名	事業名	頁
NPO 法人 一期 JAM	地域社会の新しい場所「いちごハウスにあつまろう！」	20
一般社団法人 ともしび a t だんだん	支援者同士のネットワークづくりとシングルファミリー応援フェスタの開催	21

チャレンジプラス助成

テーマ

■ 新規

『大田区防災アプリを活用した防災意識普及啓発事業』

団体名	事業名	頁
縁プロジェクト	“大田区防災アプリ”で防災訓練	22
特定非営利活動法人 CONNECT	女性や高齢者向け防災アプリ活用方法の普及啓発	23

地域力応援基金へのご寄付のお願い

24

絵本「ゆきちゃんのタイムトリップ」

スタートアップ助成

事業名 絵本の制作・出版・配布（寄贈）

助成額 20万円

◆地域での課題

核家族化、少子化、共働き等家族の状況で、地域での人のつながりが疎遠であったり、郷土愛を感じることが少ないことが地域での課題



- ・雪谷地域に長い歴史があること、住民が平和で仲良く暮らしていたことを知ることは郷土愛や隣人愛の醸成、誇りに繋がると考えている。
- ・地域住民・児童への周知、協力を得ながら「絵本を通して地域を知ること」で、「共に生きる意義を考える」ことを更に進める。

【1】専門職のアドバイスのもと絵本の制作：縄文土器研究家、司書、図書館長などや、大学生の作画、障害者施設で校正作業など包括的な関わりで創作。

【2】絵本の寄贈：教育委員会の承認を得て：近隣小学校、区内の全図書館、児童館、保育園等の他、国立国会図書館へ寄贈。

【3】図書館での絵本のおひろめ会：ダイバシティ、インクルーシブな会。研究家制作の縄文土器を触り、説明を聞き、子どもたちから、高度な質問が飛び交いました。

【4】3歳児の反応：読み聞かせを最後まで聞いた後に、鉢のかけらを拾ってきて、「これでタイムトリップできる？一緒に行こうよ！」と読み聞かせ者に話しかけたほど理解を得たことに感動。

◆基金事業概要と達成した成果

スタートアップ事業の採択を受けたからこそ運営基盤が安定し、信頼を得、スムーズに対応できた。

◆これからの取り組み



絵本の寄贈



絵本の立体化作業

【1】関係機関等に寄贈し活用を依頼：郷土博物館、図書館、学校、特別出張所等関係機関との連携によって作成をすすめ、民生委員・児童委員、青少年対策地区委員会、保護司会等関係ボランティア団体等へ絵本の説明をさせて頂きながら配布。読み聞かせを更に広げる。

【2】地域での連携・協働：多世代交流で地域力の強化に貢献。

【3】今後の展開：「読み聞かせをしたい」というメンバーが増えているので、夏休みなど長期休みを活用して活動を進める。区内の遺跡に関わる物語を絵本にして、子ども達に「自分達が住む地域に、より関心を持ち、自覚と誇りを持ってもらいたい。」

【4】WEB 発信と基盤強化

【5】財政的支援の更なる要望

土器の説明



公園で読み聞かせ



縄文土器



団体名 ユキガヤウオッチング

会員数 12名 協力者：約55名

設立 2023（令和5）年4月10日

団体の活動目的
活動実績

- ・地域の歴史を知ること、協働・共生社会の良さを考えるきっかけとする。
- ・絵本を創ること、自分たちが住む地域が縄文前期から住み良い土地であったことを見える化する。
- ・その時代は、助け合って平和に暮らしていたことを知り、自分たちの今の生活を振り返る一助とする。

歩いていけるご近所の文化をもっと深く、豊かに

事業名	地域人材の複合的活用による多世代型「ご近所文化圏」の機会・体制づくり	助成額	20 万円
-----	------------------------------------	-----	-------

◆地域での課題

都内でも芸術・文化は中心地に集中しやすく、子育てや身体機能などの理由で移動しにくい人々はその機会から遠ざかります。地域に優れた文化的技能を有する人々がいても、その専門性を発揮できる場所と機会のはかぎられており、徒歩圏文化の「質的充実」には地域の多様な潜在的な人材を掘り起こす体制が必要です。

◆基金事業概要と達成した成果

本年度事業では、地域在住の音楽家によるジャズ演奏会開催と、保育園との公園活用を中心に、音楽や絵本など特定分野への関心を軸に世代を超えた共通点をもつ近隣住民に働きかけ、文化交流の場をつくりました。

- ▶ 雪ヶ谷八幡神社での地域交流会や例大祭での、東京科学大学モダンジャズ研究会、地域のプロ演奏家の演奏および、さらなるプロ演奏家の掘り起こしと共演(7/28, 9/15, 11/9, 3/16)
- ▶ 演奏会や公園でのキッズスペースでの高齢者ボランティアを活用した多世代交流(11/9, 12/14, 3/16)
- ▶ 開催体制の充実(地域商店の協賛、企画への関与)

◆これからの取り組み

2024年度の活動を通じて、高い動機や自主性を持つボランティアと、様々なジャンルの専門的な技能を持つ人々との繋がりがうまれました。また、催しを重ねるにつれ、地域住民を通じた新たな人材の掘り起こしと開催体制の充実が進みました。今後、特に雨天時の開催に対応した準備充実による安定化と、活動発信による支援定着に力を入れながら、深みある豊かなご近所文化圏づくりをめざします。また、その数値化できない魅力や価値を効果的に伝える工夫も進めます。



今日は
公園に
本と
机と
椅子が
ある日

上・中左：小美濃悠太
バンドによる神社神
楽殿でのジャズライ
ブ

下・中右：
自作の公園ファニ
チャーを活用した児童
遊園での移動図書館



団体名	途草会 (みちくさかい)		
会員数	8 名	設立	2022 (令和 4) 年
団体の活動目的 活動実績	途草会は大田区のふれあいパーク制度による公園(一の橋児童遊園)の地域活用を中心に、徒歩圏での「むりのない」まちづくりの方法を探っています。大きな成果や賑わいよりも、地域活動の質の多様化と深化を重視し、専門性のあるとりくみや、それに伴う内容や対象の一定の限定性を尊重しています。2024 年度は東京都によるアートと福祉を連携させる「TURN LAND プログラム」に参画しました。		

あなたのよいトコ、すてきなトコ

事業名 ほめトコ

助成額 20 万円

◆地域での課題

言動・見た目で判断し関係を決めてしまうこともあるという課題があります。

外見や言動ではなく、作った過程や思想などに良いところを見つけ、普段の判断基準とは異なる側面からお互いを見ることで、より良い人間関係、地域社会に結び付けます。

◆基金事業概要と達成した成果

【工作体験ワークショップ・太陽で色が変わるビーズでストラップを作ろう】

光による色の変化、夏と冬の太陽の違いを実感しながら、たくさんの種類のビーズから作るそれぞれの組み合わせを楽しみました。

【鑑賞ワークショップ・手の記憶】

Rumah Tangan 様との協働活動。「見ない」で見えるものを作る体験を行いました。ご参観してくださった保護者の方も、手探りで活動するごちない我が子の姿に、小さい頃の様子を見出し、見ているようで見ていないのは自分かもと感じました、と貴重なご感想を頂きました。

◆これからの取り組み

【今後の課題】

- ・集客の増加と幅を増やす。
- ・企画内容が伝わりにくい。

【今後の改善点】

- ・インスタグラム・ラインアットで、イメージしやすい動画や画像投稿などの活動発信を行う。
- ・実施内容がイメージに繋がるちらし作りを検討する。

◆第16回「NPO・区民活動フォーラム」

一般社団法人和文化研究さくら様と「カンカラ三味線を作ろう！」連携ワークショップ企画を行いました。



組み合わせをよく考え、完成を思い描きながら作りましたが、光に当てて予想とは異なる色の変化で驚いたり感動したり。



見ないで野菜に触れて、手の感覚を研ぎ澄まし、自分を信じて完成！アイマスクを取って見てびっくり！

団体名	ほめトコ		
会員数	3名	設立	2022（令和4）年9月
団体の活動目的 活動実績	【活動目的】遊びで作ったゴミのように見える作品でも“良いところ”を見つけ合い、お互いの成長に繋がります。 【活動実績】大田区区民活動フォーラム出展、ワークショップにて他団体様と連携、「作る教室」実施、こらぼ de アートの出展		

歌の力で高齢者を元気に

事業名 老人ホーム等慰問演奏会による地域貢献

助成額 5万円

◆地域での課題

外出できない施設入居の方々に慰問で歌曲をお届けしたり、リクエストに応じて懐かしい歌と一緒に歌唱すること

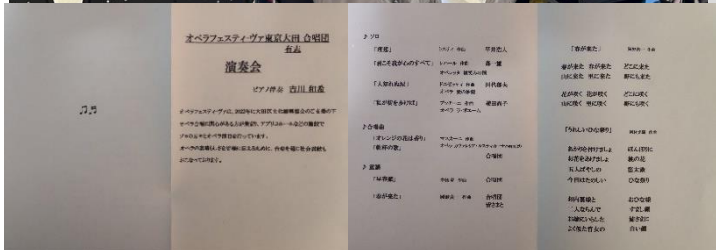
◆基金事業概要と達成した成果

【事業の対象者】大田区の高齢者等、演奏会に出向けない方々

【事業目的】老人ホーム慰問等を通じ高齢者等、気軽に外出できない方々の生活に豊かで健康的、文化的生活支援を行います。

【事業内容】老人ホーム等を慰問し、合唱曲・歌曲演奏会を行います。

【成果】大森赤十字病院にて演奏会を実施しました。入院患者はもとより、病院の医院長やスタッフ、さらには近隣の皆様にもご来場頂き、一緒に歌うなどして楽しんで頂きました。病院からも感謝されました。



◆これからの取り組み

【今後の課題】

- ① 団員の新規メンバー募集、団員数増加により活動回数を増やします。
- ② 日頃の練習成果を発表する場になることから、普段の練習ともリンクさせます。
- ③ 活動先施設を増やし、地域の方や、例えば病院などに入院中の方を対象に検討していきます。

【今後の改善点】

- ・当団を休団中となっている方々には当団への復帰を期待しており、また、新規メンバーは随時ホームページやフェイスブックを通じて募集中です。団員数回復後に回数を増やす検討をします。
- ・オペラやイタリア歌曲ばかりではなく日本の唱歌など取り入れる検討をしていきます。

団体名	オペラフェスティヴァ東京大田		
会員数	17名	設立	2022（令和4）年4月
団体の活動目的 活動実績	【活動目的】歌唱技術向上を図り、団内の親睦を図るとともに、広範な社会的、文化的活動に寄与することを目的とする。 【活動実績】毎月1～2回の練習、2023年7月に演奏会「メリーウイドウ」実施		

生きる力の大切さ

事業名 子どもの「生きる力を育てる」応援プロジェクト

助成額 15 万円

◆地域での課題

- ① 子どもたちが地域の中で遊ぶことが失われている。(遊びは子育ての基本)
- ② 地域でも学校でも「保護者同士の交流の場」が失われている。
- ③ スマホ、タブレットの広がり、親の子どもを育てる力が失われている。



◆基金事業概要と達成した成果

- ① 「遊びと工作の会」を開催。
毎月 2 回、プラムハイツ大森西集会室を会場にして開催。当初、区内で活動している団体に運営を委託。その後、独自に遊び団体を創設。毎回 25 名前後の小学生などが参加。
- ② 夏休み子どもキャンプを実施。
保育園児、小学生 37 名が長野県駒ヶ根で 3 泊 4 日のキャンプを実施。
- ③ 東京湾羽田沖で「ハゼ釣り交流会」を実施。親子 20 組が参加。

12月24日に開催した「クリスマス会」の写真です。朝 9時30分に集まり

- ① 工作の会 (9:30~10:30)
- ② クリスマス会 (10:30~11:30)



アルプス子ども会の集合写真です。

◆これからの取り組み

- ① 毎月 2 回の遊びと工作の会の継続。
- ② 参加してくる子どもの保護者を活動に巻き込む。
- ③ 外遊びの開催。
- ④ 保護者会の組織化。
- ⑤ 子ども意見交換会の実施。
- ⑥ 毎月 1 回の「こども食堂」の運営および年間を通しての食料支援の会の継続。年間参加者数 1,000 名を超える。



上記の写真は 8 月の長野県駒ヶ根での夏休みこどもキャンプの写真です。(3 泊 4 日)

団体名	おおた・子どもの生きる力を育てる応援プロジェクト（新名称：おおもり・こども応援プロジェクト～2025 年 2 月 22 日名称を変更しました）		
会員数	10 名	設立	2022（令和 4）年 3 月
団体の活動目的 活動実績	① 子どもたちの「生きる力」を育てる。 ② 子どもと保護者の居場所をつくる。 ③ 子どもと家族の交流の場づくり、子育て講座などを開催する。		

事業名

福祉施設利用者や学習支援塾利用者等、事情があって音楽を必要としながら生演奏に接することができない人々の元へ、出向いて良質な音楽を届ける音楽アウトリーチ活動

助成額

24 万円

◆地域での課題 ①学習支援塾

学習支援塾の児童の親はひとり親が多いため、子どもの成長に欠かせない「多様な経験」に乏しいきらいがあると言われる。具体的には、演奏を間近で聴く経験、楽器を自由に演奏する経験が挙げられ、身近にある音楽の機会を自ら閉ざしてしまう可能性が高い。

② さぽーとぴあ木管五重奏演奏会

障がい者の中には情動反応が強くなるために生演奏など外部からの刺激に大きな声や身振りで反応してしまい、健常者と共に音楽会に行くことが難しい方が多い。その為に質の高い生演奏を聴く機会は健常者に比し少ない

◆基金事業概要と達成した成果

中高生、及び小学生を対象に、ソプラノ、バリトン歌手による演奏会、打楽器やピアノを使用したワークショップを行った。前者は「ひとりの声種の違い」、後者は打楽器が「一つの楽器から様々な音が出ること」、ピアノが「身近にある楽器、曲は自分なりに演奏することができること」をテーマにした。アンケートの結果、演奏会、ワークショップともに、約 67%が「とても満足」、残り約 33%が「満足」との成果が得られた。自由記述欄には、テーマに関わる言及も見られた。

◆基金事業概要と達成した成果

東京都交響楽団木管五重奏メンバーによる質の高い素晴らしい生演奏を、障がい者も健常者も一緒に聴く機会を設けることができた。

楽器の体験コーナーでは、楽器の説明・音の出る仕組みを説明した上で会場の参加者に実際に音を出してもらった。その方法について奏者と良く打合せをしたことで、体験者に応援の声援が飛ぶなど、会場の一体感を醸し出し、とても良い雰囲気になった。

クラシックになじみのない聴者にも良い選曲で木管五重奏演奏会という珍しい編成によるコンサートであっても、年齢や特性に関係なく一緒に音楽を楽しめた。

◆これからの取り組み

児童養護施設を対象に公演を行う。予めから行っている、事前に人を(主催者としてではなく、知り合いとして)知ってもらうこと、を大切に、施設やそこにいる人のニーズに沿った時間・空間をつくる。また、演奏者に聴衆を強く意識する機会を提供し、実行を務める会員に継続的なアウトリーチを目的とした引き継ぎを行なっていく。

◆これからの取り組み

児童も参加していたことも踏まえ、聴者もリズムを取ったり、共に歌えるような選曲を考えたい。

今回木管五重奏だったので、次回も継続助成金を活用出来ることになればオーケストラ弦楽器奏者とピアノを入れたピアノ五重奏の豪華な室内楽編成で、質の高い生演奏を障がい者にも聴く機会を設けたい。

団体名

大森室内楽愛好会

会員数

13 名

設立

2011 (平成 23) 年 4 月

団体の活動目的 活動実績

「音楽体験を共有することで人と人が心を通わせ、人生を豊かに出来るコミュニティの創出を目指す」ことを目的とし、病院や高齢者施設での音楽アウトリーチ活動、及び『福島にピアノと音楽を届けたい』プロジェクトや軽井沢室内楽愛好会等、時代や環境に合わせた活動に取り組んできている。

大岡山をもっと知り、私たちの住む街への愛着を

事業名 “おおお”をもっと知り、もっと好きになるプロジェクト

助成額 40 万円

◆地域での課題

大岡山は東工大が属する学生街であり、毎年かなりの学生が大岡山を拠点として活動している。しかしその一方で、大岡山は古くからコミュニティが強く、学生はコミュニティには気安く入りにくい現状にあり、東工大生と大岡山の街との関わり合いには未だ更なる発展の余地があると言える。

◆基金事業概要と達成した成果

大岡山商店街の賃貸スペースにて、展示や企画で大岡山の多様な魅力を紹介し、住民や学生の交流の場を創出する1週間の地域活性化イベント「飛びまち」を開催した。今年度は、助成金を発動しながら、地域の人をターゲットにして東工大のキャンパスを案内する「東工大ツアー」や、東工大内の他の学生団体と協力した地域の子とも向けのイベント「瓶の中の蝶」、大森六中の学生とともに、研究した内容について発表する「研究発表」などのイベントを開催した。どのイベントも沢山の人が参加いただき、会場内を飛び越えて、町全体を巻き込んだイベントとすることが出来た。

◆これからの取り組み

地域住民と東工大生との直接的なかかわりを作り、大岡山をさらに知ってもらって、愛着を持ってもらうという基本目標を掲げたくて、今後はさらに地域の中高生など対象を広げ、関わりの機会や密度がより多く濃くなることを目指したい。東工大の名前は既に東京科学大学へと変わったが、旧東京医科歯科大学の学生との交流が盛んになるのはこれからなので、大岡山のまちとの関わりが増える未来につながる活動を積極的に考案し、取り組んでいきたい。



↑ 地域活性化イベント「飛びまち」の外観。本イベントではこの空間を拠点として様々な活動を行った。



↑ 「研究発表」イベントにて、大森六中の生徒が発表している様子。

団体名	おおお知るまちプロジェクト		
会員数	10 名	設立	2021（令和3）年9月
団体の活動目的 活動実績	花・緑・水の豊かなまち「大岡山(おおお)」の魅力を発信し、住民や学生、東工大の教職員の方々に大岡山をもっと好きになってもらうことが活動目的。 2022～2024 の三年間、大岡山北口商店街にて、展示イベント「飛びまち」を開催。ブログサイト note にて大岡山に関する記事を投稿。		

自然にふれてカラダと心の健康を

事業名 大田区の自然にふれる活動

助成額 32 万円

◆地域での課題

当社はスポーツの普及と区民の健康増進を目的にした団体です。コロナ後カラダ以上に心の健康を失い悩む人が増加傾向にある。
スポーツをする前にまずは外に出て季節を感じ、リフレッシュすること、気持ちを整えるためのきっかけを作る。

◆基金事業概要と達成した成果

自然素材で工作
自然の中で花を使って身を飾る
植物を通じ季節限定の楽しみ方を知る

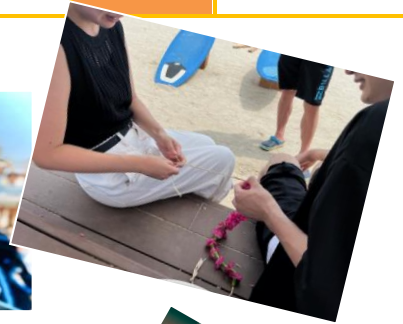


外への興味・外出のきっかけ
散歩からスポーツへ
スポーツの体験会や外でのワークに参加

◆これからの取り組み

- ・今回できなかった多摩川・大きな公園での自然体験ワークを増やしていきたい
- ・季節を横通ししたワークとスポーツ&自然活動のコラボイベントを開催し健康増進に寄与する。(ノルディックウォーキング+自然素材の採取+工作ワークなど)
- ・会員数を増やす

フラワーレイ



葉っぱであそぼう



クリスマスオーナメント
を作ろう



正月飾りを
作ろう

団体名 一般社団法人 TOKYOBAY スポーツ&カルチャークラブ

会員数 10 名

設立 2020（令和2）年2月

団体の
活動目的
活動実績

屋外スポーツや文化活動を通じて区民にスポーツ普及とカラダと心の健康増進に寄与することを目的としています。大田区スポーツ協会からの受託事業を含め、多くの体験会を開いています。

もっと身近に音楽、国際交流を

事業名 大田区音楽交流プロジェクト

助成額 40 万円

◆地域での課題

- 文化芸術を身近に体験する機会の不足
- 高齢者の方、子育て世代の方に配慮した地域交流の不足
- ”国際都市おおた”の意識不足



◆基金事業概要と達成した成果

概要：

プロ音楽家、外国人音楽家を交えた演奏会、楽器体験、交流の場を地域の身近な環境で提供しました。

成果：

- ・ 赤ちゃん連れのご家族、学生の方、高齢の方、障害のある方、日本在住の外国人の方など多彩な方に参加いただきました。
- ・ 大田区内の幅広い地域から約 200 名のご参加がありました。



◆これからの取り組み

- ・ どのような配慮があれば、地域の方が各種イベントにより参加がしやすくなるのか、各所からご意見を伺いながら理解を深め、活動に活かしていきたいと思っています。
- ・ このような活動を通して、地域の方と対話をする機会を持ち、地域の一員としてできることを増やしていきたいと思っています。



団体名 東京プレクトラム音楽協会

会員数 31 名

設立

2019（令和元）年 5 月

団体の活動目的 活動実績

ヨーロッパ、アメリカ、アジアの各国文化機関、自治体、大学などと連携したコンサート、ワークショップを国内外で行っており、2023 年には東京芸術創造文化発信プログラムに選出されました。
プロ音楽家、外国人音楽家とのつながりを活かしたボランティア活動として、これまでも保育園や学校を訪問してコンサートを開催したり、楽器体験の場を提供したりしてきました。今後は地域の幅広い方と連携を深めていきたいと思っています。

第四回 大田区伝統工芸展

事業名 大田区伝統工芸展

助成額 38 万円

◆地域での課題

区内で当会の認知が毎年されておりますが、より一層積極的に区の主催のイベント、文化活動に参加貢献し区民の文化向上と認知を理解していただける努力を一步一步進めてまいります。

◆基金事業概要と達成した成果

- ・大田区伝統工芸展実施
- ・大田区主催のイベント参加
- ・「おおた文化 WEEK in GRANDUO」において大田区共催により実演、パフォーマンス、ワークショップの実施



大田区長との記念撮影

◆これからの取り組み

羽田空港を有する大田区より日本人の細やかで固有の風土から誕生した手仕事の文化である和の手仕事「伝統工芸」の素晴らしさを国内・海外に発信し職人の地位向上と経済的に安定する事と共に後継者を育成する努力を進めてまいりたいと思います。



会場内 各ブースの様子

団体名	一般社団法人 大田区伝統工芸発展の会		
会員数	24 名	設立	2012（平成 24）年 6 月
団体の活動目的 活動実績	利便性や機能性が重視されるばかりの現在において未来ある若年層などに日本独自の文化・伝統工芸の知識を深め理解していただき、社会的な地位を確立し経済的にも安定した生活ができる事を目指し健全に魅力ある仕事を理解していただき後継者を育成する。 ・区内の小学校において総合体験学習し啓蒙活動 ・大田区立中学校生徒職場体験学習受け入れに参加 ・「池上祭り」参加など地域活動に積極的に参加 ・第 4 回大田区伝統工芸展実施		

どこでも誰でも人とつながれる社会をめざして

事業名 ICT 活用による社会参加推進事業

助成額 40 万円

◆地域での課題

障がいや病気、家族の介護や育児などさまざまな理由で外出が困難な方が参加できる地域イベントや就労機会はまだまだ不足しています。

インターネットや ICT 機器を活用し、多様な人が様々な方法で参加できる地域社会づくりが必要とされています。



◆基金事業概要と達成した成果

・ICT 機器を利用した遠隔体験事業の拡大・充実化
ICT を体験してみたいという身体的障がい者の方に 販売会やイベントに参加してもらうことができました。中には視線入力でロボットを動かす重度障がい者の方にも参加してもらいました。

・ICT 機器を介した遠隔朗読、講演の実施 2 施設の図書館での遠隔朗読、自主イベントの音楽朗読会や、サマースクールや企業等での講演を行いました。理事である桑原の体験談に関心を持ってもらったほか、他の障がいのある方にも 遠隔から話してもらい、より ICT 機器の可能性を知ってもらえました。

・ICT 機器を活用したオンラインボッチャ、ユニバーサルスポーツイベントの実施 イベントに興味を持ち、参加してくれる人は増えました。今後はボッチャ専用の遠隔ロボットなどをモノづくりの学生や大田区の工場とも連携していきたいです。

・ICT 機器を障害者施設や高齢者施設へ広めるためのアウトリーチ活動 音楽イベントで ICT 機器を使っている受付や司会などを行いました。



◆これからの取り組み

さらに多くの外出に困難を持つ方々へ ICT 機器の可能性を知ってもらうため、障害者、高齢者福祉施設等でも積極的に体験会を行い、施設単位で ICT 機器を使ってイベントに参加できる流れを作りたいと思います。

同時に現地にてサポートをするメンバーの協力体制を安定化させることが目標です。

団体名	特定非営利活動法人 どこでもオリヒメ		
会員数	10 名	設立	2020（令和 2）年
団体の活動目的 活動実績	「外出困難でも社会とつながりたい」といった声に寄り添い、多様な人の社会参加を実現することを目標に設立されました。ZOOM や分身ロボット OriHime 等の ICT 機器を活用し、外出に困難を抱えていても地域のイベントに参加し、地域で人と人がつながり合い、学び合い、誰もが自分らしく生きていける社会を目指し朗読演奏会、社会体験事業、講演会などを行っています。		

世代を超えた輪を広げて

事業名 世代を超えて皆が集まる場所を作る事業

助成額 30万円

◆地域での課題

昨年度までは月1回開催だったが、今年度は毎週開催にしてレッスンを開催していった。

コロナが明けてきていろんな世代の方が来てくれた。そして、年4回のイベントも常時開催と別に開催できた。まだまだ地域の方への認知度が低いので宣伝活動に力をいれていきたい。

◆基金事業概要と達成した成果

4年目の事業も先の見通しをたて進めることができ、常時開催のものは参加者が定着してきた。イベントは大田区の掲示板や地域の商店街の張り紙のおかげでいろんな方に来てもらえた。

コロナがあけてきて色んな世代の方に通っていただけるようになり縦のつながりができつつある。年々、チャレンジしていろんな講座やイベントを開けるようにしている。何よりもこの場所を継続していけてありがたいです。

◆これからの取り組み

初めに掲げた目標が

【この場所を開催し続けること】

昨年は Link×Link の名前を売ることでしたが、まだまだここができてないかと思っています。4年目は常時開催ができイベントも前の年より多くの方が来てくれ、少しずつ広まってきているかと思います。来年度も少しずつ前に進んでいきたいと思っています



クリスマスイベント



常時開催 朗読講座

団体名	Link×Link		
会員数	40 名	設立	2021（令和3）年1月26日
団体の活動目的 活動実績	色々な世代が集まる場を開催。色々な世代が集まり交流を深め、様々な人間関係を築き助け合いながらより良い日常が過ごせるように、いつでもここに来て帰ってこれる『みんなのオアシス』となるように活動が続けたい		

くらしの中でコンポストや土育ての実践を

事業名 [くらし×微生物] いきちかコンポストプロジェクト

助成額 30 万円

◆地域での課題

- ・「コンポスト」や「有機物の再生」という概念も、ツールも、まったく普及していない・・・！
- ※コンポストは、生ゴミや落ち葉などの有機物を土に再生すること、またはそのための容器のこと。

カリフォルニア州やフランスではコンポストは義務化されています。韓国でも生ゴミリサイクル率はほぼ 100%を達成しています。
一方大田区では、基本計画や区の事業にコンポストが含まれていません。

- ・公園花壇活動に必要な「いい土」が足りない。土を育てられる人がいない。

◆基金事業概要と達成した成果

コンポストの存在や利点、簡単にできることを知ってもらい、暮らしの中で実践してもらうための活動をしています。

- ・情報発信（ブログ、YouTube、SNS、チラシ等）
- ・コンポストの無料相談会（1/19）
- ・「キエーロ式プランターコンポスト製作講座」（6/23、8/18、11/4、12/1、2/11、3/20）
- ・「コンポストでの土育てのコツ講座」（6/23、11/4、12/1、1/19、2/11、3/20）
- ・コンポストのお試し無料貸し出し（こども食堂）

◆これからの取り組み

- ・コンポストの情報発信、製作講座、土育てのコツ講座は継続。今後はオンライン講座も検討したい。
- ・学校や保育園などの施設、地域団体と協働して、コンポストの認知度を高めたい。



- 🔔 コンポストもいろいろありますが、挫折しにくいのはこの「キエーロ式プランターコンポスト」！生ゴミを入れて放置しておくだけで生ゴミが消えます。そして「いい土」になります。
- 🔔 コンポストは、家事ラク目的に自分のために使いながら、ゴミ回収や焼却の負担軽減（＝地域貢献，地球貢献）にもなり、くらしの中で「共生」も実感できるという最強ツールです。ぜひ暮らしの中に取り入れてください。



挫折しにくい「キエーロ式」の特徴は、空気の通り道を確保する斜めのフタ。製作講座では、こどもからご年配の方まで、みんなでワイワイと製作しました。地域で少しずつコンポストのある暮らしが始まっています。



池上会館で、池上小学校の給食残渣の堆肥化が始まっています！池上特別出張所が春に地域の花といっしょにこの堆肥を地域の人に配る予定です。

団体名	いきちか学童クラブ運営会（「いきちかクラブ」の運営団体）			いきちかクラブ 
会員数	2 名（運営）	設立	2019（平成 31）年 4 月	
団体の活動目的 活動実績	私たちは、「生きやすい社会」の形成を目指します。 一子どもも、大人も、みんなが今より少しでもラクに楽しく生きられる社会を目指してー ・取りこぼしによる生きづらさを少しでも軽減したく「今ここに必要なのにまだない仕組み」を作っています。 ・あらゆる「みんな」が、24 時間 365 日いつでも公園花壇に関われる仕組みを目指す「いきちか花壇プロジェクト」など。 ・各種 SNS や LINE 公式、だれでも匿名で入れる LINE オープンチャットも運営中。コミュニケーションしてください。			

子どもの自立をきちんと支援する“大人づくり”！

事業名 子どもの発達・育成に関する啓発および支援事業

助成額 30 万円

◆地域での課題

核家族化に加え、地域との関係が希薄化する中、子育ての孤独化が、コロナ禍でさらに深刻化している。子どもがその発達段階ごとに必要とする、親や身近な人との関わりを通し、自己肯定感や人への信頼感を高めたいけるような環境づくりが急務である。

○個別相談



◆基金事業概要と達成した成果

○子育て支援者の現場（学校、幼稚園、保育園）などでの個別事例に対する支援、勉強会を実施。

○子育て支援者（幼保、学校、児童館、自発、放デイなどの職員）に対する関わり方についてのスキルアップ研修を実施

○民生児童委員との連携、スキルアップ講座の実施

○子どもの発達と、周囲との関わり方の重要性に関する啓蒙啓発活動

○支援者研修



◆これからの取り組み

○発達や子育ての専門家による子育てセミナー実施の継続

○子育て支援者の現場（学校、幼稚園、保育園）での個別事例に対する継続支援。

○子育て支援者に対する関わり方についてのスキルアップ研修。

○これらを各団体、組織（保育園、幼稚園、民生委員児童委員等）との連携を進めながら拡げ、継続していく。



団体名	ハートリーププロジェクトおおた		
会員数	5 名	設立	2008（平成 20）年
団体の活動目的 活動実績	地方出身者で共働き・ワンオペ育児、さらに地域のコミュニティが形成されていない環境にあった代表が、子育ての困難さを実感、同様の状況にある複数の保護者との出会いが団体設立のきっかけとなる。主に有資格者によるメンバーで構成され、これまで地域コミュニティの形成と子育て家庭への支援として、認可外保育施設運営支援、地域イベントでの保育サポート、小学校でのゲストティーチャー、保育園への発達相談支援、サマースクール運営支援等を行ってきた。		

座学とフィールドワークで学ぶ大田区学講座

事業名 「大田区学」の学びを講座とフィールドワークで推進する事業

助成額 19 万円

◆地域での課題

元気高齢者を中心に生涯学習に取り組む意欲がある区民の皆様にも心身共にリフレッシュできるイベントがあまり見当たらない。



◆基金事業概要と達成した成果

【事業概要】大田区の重要施策である Unique Ota「大田区学」(施設・歴史・町並みなど多様な魅力)を識者から講義を受けるとともに専門ガイドによるフィールドワークによって更に理解を深めていただくことを目指す。

【事業内容と成果】

令和6年度の講座内容と成果

*満足度は座学とフィールドワークの合計

講座名	受講者数	満足度(大変良かった・良かった)
① 大田区の古代について学ぼう(6/8)	25 名	◎31+○18=49/49:100%
② 羽田空港について徹底的に知ろう(9/13)	34 名	◎41+○18=59/62:95%
③ 大田区の町工場について学ぼう(11/30)	20 名	◎16+○13=29/29:100%
④ 本門寺と門前町池上の今昔物語(1/25)	27 名	◎36+○18=54/54:100%
合計	106 名	◎124+○67=191 (98%)



◆これからの取り組み

次年度についても初年度と同スタイルで座学とフィールドワークで学ぶ大田区学講座⑤～⑧を午前座学、午後フィールドワークという形で展開したい。

- ⑤海苔の歴史が薫る、大田区に残る古道(旧東海道・羽田道)を訪ねる
- ⑥大田区に残る山岳信仰(御嶽信仰・富士信仰など)を学ぶ
- ⑦洗足池と池上本門寺に勝海舟の足跡を訪ねる
- ⑧大田区民誇りのローカル線(多摩川線・池上線)と起点駅・蒲田の今昔を学ぶ



団体名 おおた生涯学習世話人会

会員数 11 名 設立 2013 (平成 25) 年 5 月

団体の活動目的
活動実績

大田区民への生涯学習社会の振興：元気高齢者の地域参加促進事業
平成元年度は地域力応援基金助成事業(ステップアップ)として 18 特別出張所管内を対象に地域おしゃべり講座とアクティブシニア交流会を開催。令和3年度以降は地域おしゃべり講座を当該事業の継続事業として実施。

アントレプレナーシップ型インターシップ事業による新たな人材育成

事業名

産官学連携アントレプレナーシップ型
インターンシップ事業

助成額 116 万円

◆地域での課題

NPO 等は、人手が足りない、人材の確保が難しいという悩みが常にある。一方これから社会に出ようとする現代の学生達は、より良い就職活動の為に、資格取得や社会人としてのマナーを身につけるという視点に重きをおきがちである。その直接的なニーズをマッチングするとミスマッチングがおきる。学生も NPO 等もアントレプレナー型インターンシッププロジェクトを展開することによって、様々な困難や変化に対して、共に社会課題を見つけ解決に向かってチャレンジする機会を体験したり、互いの協働によって解決策を探求する知識・能力・問題解決型の行動力を身につけることができるとともに、それぞれのニーズへの対策にもなると考えた。

◆基金事業概要と達成した成果

「アントレプレナーシップ」についてキックオフセミナーを開催した。この講演会には、学生のみならず、大田区内の企業や NPO も参加した。蒲田図書館、「気まぐれ八百屋だんだん」（子ども食堂）、おおたラーメンこども食堂、どこでもオリヒメ（NPO）、（株）大鵬（クラフトビール会社）をインターンシップ受入れ団体とし、延べ 27 日間のインターンを実施した。学生と受入れ団体との交流会を実施した。社会性の高い活動への興味関心が醸成され、そのことに興味をもつひとのつながりができた。



◆これからの取り組み

アントレプレナーシップ型インターンシップを行うことで、学校内では獲得できない企画提案や問題解決の実務経験を積むことができる。本プロジェクトを継続して開催していくことで、学生にとっても NPO 等や企業にとっても、学生の意見を聴くことで新たな気づきが生まれる。互いに連携・協力し、地域や社会の課題に気づき、解決をしようとするのが重要である。



佐藤大吾さん自主的に考え行動できる力を身に着けることができる

アントレプレナーシップとは「困難や変化に直面したときに、与えられた環境にとらわれず自ら行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神や姿勢」

インターンシップの様子



団体名

公益社団法人日本サードセクター経営者協会

会員数

43 名

設立

2011（平成 23）年 9 月

団体の活動目的 活動実績

サードセクター組織の親睦と連携を深める場と機会を提供し、次世代の経営者を支援し、社会に対してさまざまな提言を行う。
休眠預金事業資金分配団体、東京都女性・若者・シニア創業アドバイザー
NPO 向けの助成金活用セミナー、経営セミナー、個別コンサルティング実施

こどもも大人もいちごハウスにあつまろう！

事業名 地域社会の新しい場所「いちごハウスにあつまろう！」

助成額 150 万円

◆地域での課題

- ・下町とタワーマンションとのコミュニケーション不足と地域格差
- ・若い世代(世帯)と高齢者世帯とのコミュニケーション不足と世代格差
- ・高齢者の孤独
- ・情報弱者の貧困
- ・こどもの学習格差→塾に行ける子、いけない子の格差
- ・在日外国人二世のアイデンティティ問題
- ・高齢者、障がい者が趣味を持つ場の不足



◆基金事業概要と達成した成果

【寺子屋事業】

大田区下丸子周辺の小学生を対象に学習のサポート、居場所を提供。

【ワークショップ事業】

大田区下丸子周辺の地域住民の方気軽に集まり、様々なコト(文化、趣味など)を共有する場所として提供。

【成果】

近隣に住む小学生を中心に寺子屋を通じて、交流を深める場を提供。

ワークショップにも参加することで、興味を持つ幅を広げることが出来た。

保護者のお悩み相談の場としても活用でき、こどもだけでなく大人の交流の場としても活用。

また、地域店舗の協力を得て、ワークショップでコラボすることで、地域の良さを伝えと同時に本事業の宣伝・理解を深めることに繋がっている。



◆これからの取り組み

NPO 法人一期 JAM の「いちごハウスにあつまろう！」プロジェクトは、地域のこども達を対象とした学習のサポートと交流の場を提供しています。

今後の取り組みでは地元児童館や小学校との連携を深め、より多くの方に認知・利用いただけるよう周知できる仕組みを検討していきます。

また、スタッフの拡充と専門知識の向上、行政への対応強化を図るように努め、困っている人に手を差し伸べるだけでなくサポートを受けられるような窓口としての機能を持てるように体制を少しずつ整備を検討しています。

さらに寺子屋やワークショップ事業の活動を継続し、地域住民誰でも参加可能なプログラムを提供し、地域コミュニティとの連携を深めていく予定です。



団体名 NPO 法人 一期 JAM

会員数 20 名 設立 2013 (平成 25) 年 12 月

団体の活動目的 活動実績

当団体は、「音楽からはじまる∞多様性を認め合い、つながりあえる社会」を vision に掲げて活動。アフリカのジャンバワークショップを起点に、こども食堂、フードドライブ、商店街活性化などで多様性を重視した活動を展開。コロナ禍前は会食形式のこども食堂で、こどもだけでなく全世代の交流の場を提供し、音楽を通じて異文化への理解を促進。コロナ禍ではお弁当形式で国際料理を提供し、フードパントリー活動も導入。2023 年 7 月からは寺子屋事業で地域のこどもたちに交流の場を提供。また、近隣飲食店と協力して会食形式のこども食堂を再開する。

支援者のネットワークで地域の困りごとを解決に導く活動

事業名

支援者同士のネットワークづくりと
シングルファミリー応援フェスタの開催

助成額 150 万円

◆地域での課題

大田区はこども食堂発祥の地であり、現在は「こども食堂連絡会」が構築され地域での支援の輪が広がってきている。こども食堂は相談機関ではないが、気軽に立ち寄れて信頼できるスタッフがいることから悩みを吐露する利用者が多い。さらに悩みが複合的で複雑化している中で、困りごとを解決に導くための支援者同士のネットワークが課題。

◆基金事業概要と達成した成果

事業概要

成果

本事業の申請団体は「ともしび at だんだん」であるが、区内で活動する4団体と連携し「ファーストリーチプロジェクト」として活動をした、その結果、アイデアが膨らみ、得意分野を活かした相乗効果の活動ができた。

シングルファミリー応援フェスタ開催

- 15人の実行委員で5回の委員会を実施
- 当日は大人向け・子ども向け・親子向け等、地域団体との連携により15の企画を用意。
- 当日の参加者227人、ボランティアスタッフ42人

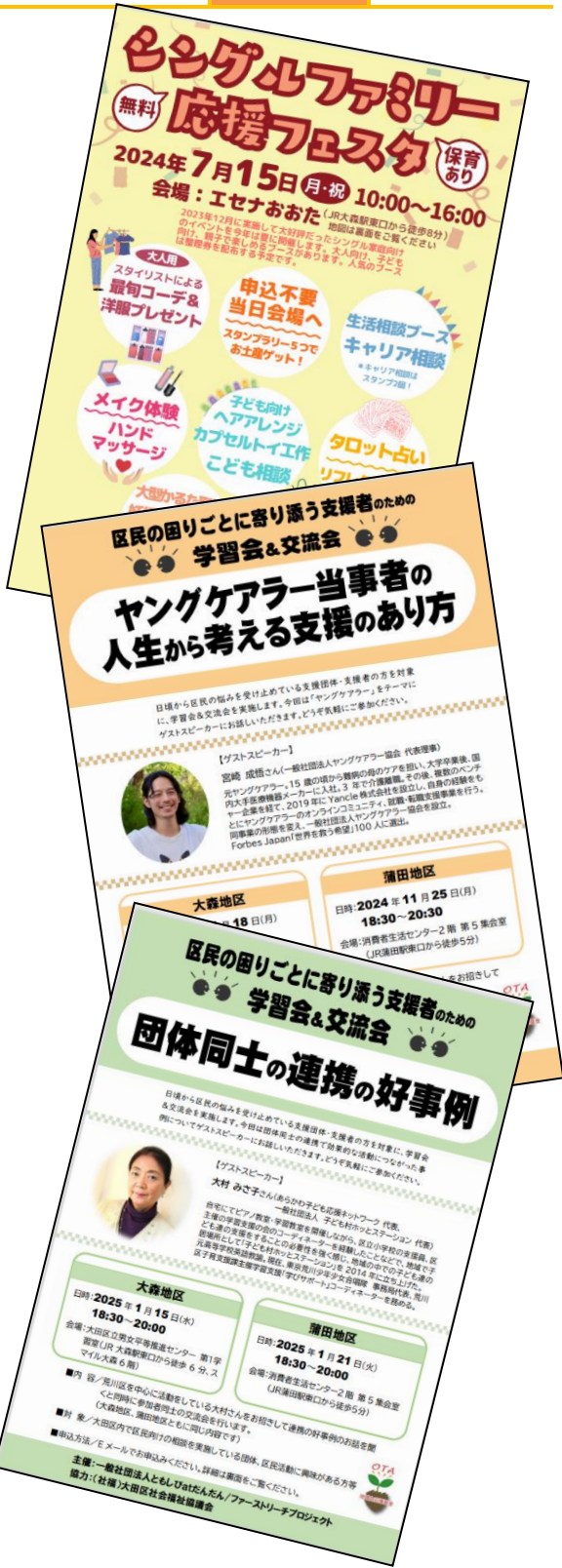
支援者同士の顔の見える関係づくりのために、学習会＆交流会を開催

- 11月、1月に大森地区、蒲田地区で支援者のための学習会＆交流会を実施。
- 支援者同士のネットワークが広がった

◆これからの取り組み

支援者同士の顔の見える関係づくりの継続

シングルファミリー応援フェスタ開催



団体名

一般社団法人 ともしび at だんだん

会員数

3名

設立

2017（平成29）年5月

団体の活動目的
活動実績

子どもからお年寄りまで、あらゆる人に勇気とやる気を芽生えさせ共に生きていく共生型地域社会づくりをめざし、こども食堂、産前産後保健室、こども天国、こども相談室、寺子屋、読み聞かせ、ジェンダーcafé、お金の勉強会等、企画から参加できる多世代ごちゃ混ぜ型の地域に役立つイベントや教室を定期的に企画開催。小学校、商店会とのコラボ企画も進行中。

災害ボランティア団体 縁プロジェクト

事業名 “大田区防災アプリ”で防災訓練

助成額 48 万円

◆地域での課題

区役所の防災危機管理課が主導して、「大田区防災アプリ」を作成しました。

避難所や危険個所の把握をしていない大田区民は多く、このアプリを使用することによって、災害への心構えができるようになります。

まだまだ、知らない区民が多いので、このアプリを区民に普及させることが最大の課題です。

◆基金事業概要と達成した成果

「大田区防災アプリ」の普及事業を実施しています。

さまざまな場面でこのアプリを紹介してきました。

アプリはまだまだ改良の余地が多いのですが、このアプリを知った人、このアプリを自分のスマホに登録した人は、いいアプリを知り、積極的に使用すると云っている人が多いです。

「大田区防災アプリ」は、災害が起こる前の防災準備として使用できます。けっして災害が起こってからだけしか、使用できないアプリではありません。このアプリを使ってみる前までこのアプリは災害が起こった後に使うものだと思っていた人がいかに多かったことか。このアプリを使う人は皆、防災で使用できる、ということを知ります。

◆これからの取り組み

過去の災害を学び、過去の災害を風化させないことが最大の防災対策である、という強い信念のもと、わたしたちは、大田区内でこれからも防災について区民と考え、対策を講じていきます。

さまざまな人たちとさまざまな場所で
“大田区防災アプリ” セミナー

山王高齢者センターにて

蒲田図書館にて

入新井集会室にて

居酒屋ちえすにて



団体名	縁プロジェクト		
会員数	20 名	設立	2012（平成 24）年 1 月 1 日
団体の活動目的 活動実績	災害ボランティア団体として、緊急・継続支援により被災された方々の自立を助け、また防災・減災活動を行い、地域住民の安全を啓発し、地域住民が安心して過ごせる街をつくっていくことを目的とする。 各地の被災地に行き、支援ボランティアを実施する一方で、大田区内において防災啓発活動を年 3 回のペースで行っている。		

大田区防災アプリを使ってみよう！

事業名 女性や高齢者向け防災アプリ活用方法の普及啓発

助成額 103 万

◆地域での課題

近年、自然災害が多発しており、様々な災害に対する備えが必要となってきている。被害を少なくするには、「まずは自分の身は自分で守る＝自助」が重要な鍵となっているにも関わらず、水と食料の備蓄のみというケースも多く、しっかりとした自助が進んでいない現状も多くみられる。「災害に備える」為に、まずは在宅避難を視野にいれた「備蓄の備え」、大田区防災アプリを活用した「情報の備え」、ご近所を巻き込んだ「共助の備え」が不可欠だと考える。防災時の情報不足の解消、地域での共助の環境整備を進めることにより、大切な命を守り災害に強い地域づくりが促進されると考えている。

◆基金事業概要と達成した成果

2024 年 4 月より、調布地区・大森地区を中心として、シニアステーション 6 回、児童館・小学校各 1 回、出張所 1 回（民生委員向け）、町会防災訓練など計 12 回、延べ約 170 名に対して啓発活動を実施した。

オリジナルテキストを作成し、防災アプリの重要性を認識してもらい、アプリをスマホにダウンロードするところから手厚くサポートを行なった。講義の最後にはアンケートを実施しており、参加者の満足度は 95%以上、「アプリが使えるようになった」「新しい使い方がわかった」といった声がよせられている。



◆これからの取り組み

今年度は自団体での啓発活動に時間と力を注いだ為、調布地区や大森地区が中心となった。

自団体での啓発活動の中で培った様々なアイデアやノウハウを生かし、他団体と協働することによって、防災アプリの普及啓発が出来る人材を増やしていきたいと考えている。

又、防災アプリの啓発のみならず、従来からの防災サロンの中に、アプリの話も組み込み、防災アプリ及び団体の認知度も向上させていきたい。



団体名 特定非営利活動法人 CONNECT

会員数 11 名

設立 2019（令和元）年

団体の
活動目的
活動実績

女性の目線を大切に防災・減災活動を行なっています。CONNECT とは繋ぐという意味があります。災害発生という最悪な状況下に於いても、多様な人々が地域の中で繋がり、寄り添い支えあえる社会の実現を目指して活動している。任意団体時から地域力応援基金（スタート、ステップ、チャレンジ）を活用し、大田区内で自助力の向上と地域での共助の重要性を広めている。



地域力応援基金へのご寄付のお願い



様々な地域の課題解決のために活かされています！



地域力応援基金は、区民や事業者の皆様からの寄付金を積立て、区内で活動するボランティア団体やNPO、地縁団体等が実施する公益的な事業を支える基金です。

1 寄付金の活用

地域力応援基金へのご寄付は、「地域力応援基金助成事業」として大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化をすすめるために活用させていただいております。

2 寄付の方法 (寄付する場合には以下4つの方法があります)

(1) インターネットによりキャッシュレス決済する

➡ 寄付金額が 2,000 円以上の場合、ふるさと納税関連サイトからクレジットカード等のキャッシュレス決済により納付することができます。申込については右下の二次元コードをご確認ください。

(2) 納付書によりお近くの金融機関で振り込む

➡ 寄付申込書を地域力推進課まで送付してください。後日納付書をお送りしますので金融機関窓口でお振込みください。なお、振込手数料はかかりません。

(3) 現金書留で郵送する

➡ 寄付申込書を同封の上、地域力推進課まで郵送してください。郵送料等は恐縮ですが、お客様でご負担ください。

(4) 直接現金をお持ちいただく

➡ 大田区役所 6 階地域力推進課にお越しください。寄付申込書はその場でご記入いただきます。

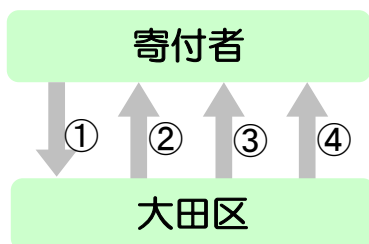
3 寄付申込書の入手方法

寄付をする場合には寄付申込書が必要です。寄付申込書は、大田区 HP からプリントアウトするか、下記問合せ先までご連絡ください。後日郵送でお送りします。



大田区 HP

4 寄付の流れ (※上記2 寄付の方法(1) の例)



- ① 寄付申込書の提出 (郵送や FAX でも構いません)
- ② 納付書の送付 (到着後、金融機関で振込)
- ③ 振込確認後、受領書を送付いたします。
- ④ 区報掲載 ※希望者のみ (掲載月は不定期です。)

令和6年度 地域力応援基金助成事業活動報告書

発行年月：令和7年7月

発行：大田区地域未来創造部地域力推進課

区民協働・多文化共生担当

〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

TEL:03-5744-1204 FAX:03-5744-1518

